

第4節 地産地消プロジェクト

森林・農業地域と市街地のお互いの良さを活かした連携を図り、農林業の活性化・振興を図っています。また地産地消の仕組みをよみがえらせ、生産者と消費者の顔が見える関係を目指します。

【奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直しの関連指標】

指標				平成30年度	令和元年度	目標値 (令和3年度)	担当
市民ふれあい交流事業 (ミニ直売所) (箇所)				6	6	10	農政課
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント			
4	1	3	2				
総合評価		前年度からの進捗		生産者の顔が見えることにはニーズがあり、また地元の伝統野菜の普及促進においても直売所の充実は不可欠である。出張販売の依頼と請負のマッチングを市が行うことで、この事業の目的が達成されることに期待したい。			
B							
指標				平成30年度	令和元年度	目標値 (令和3年度)	担当
農業地域と市街地との 交流参加者数(人)				79	79	100	都祁行政 センター 地域振興課
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント			
5	2	3	3				
総合評価		前年度からの進捗		市民の地産地消の意識向上のためにも交流会は重要である。新型コロナウイルスの出現により、都市部の若者の自然回帰という意識を変えたこともあり、就農にもつながる可能性がある。オンライン開催も含めた感染予防対策等の方法を検討し、引き続き農業地域と市街地の交流を促進してもらいたい。			
A							
指標				平成30年度	令和元年度	目標値 (令和3年度)	担当
奈良県産学校給食食材 地産地消率(%)				43.05	48.64	50	保健給食課
単年度 達成率	進捗率	波及 効果	効率性	推進会議のコメント			
5	4	3	3				
総合評価		前年度からの進捗		奈良県産学校給食食材地産地消率が年々増加し単年度目標を達成しており、最終目標の達成も見込まれ高く評価できる。食育、食の安全安心の観点から、地元の地産地消の食材利用は重要である。引き続き「古都ならの日」の実施及びJAならと連携を図るとともに、今後は生産者さんとのふれあいや、お話を聞く機会があれば更に良いと考える。			
A							

【実施事業】

1 月ヶ瀬、都祁地域と都市部との連携

月ヶ瀬、都祁地域と都市部とのふれあいの場として、月ヶ瀬では地域団体が茶摘み体験、こんにゃく作り体験、餅つき大会等を行っており、都祁では都祁まちづくり協議会が農業体験交流事業（茶摘み、ブルーベリー採り、冬野菜の収穫・しめ縄・吊るし柿作り）を行っています。

2 市民ふれあい交流事業

【ミニ直売所】

地場産の新鮮で安心・安全な農産物の消費を促進するとともに、生産者と消費者のふれあい交流を推進するため、令和元年度（2019年度）は、佐保台、鳥見、富雄、鶴舞、赤膚、済美南の6箇所においてミニ直売所を実施しました。



【ふれあい交流ファーム】

農村地域において農業従事者からの耕作指導を受けながら農作物を育てる実体験を通して市民間のふれあいを深める場を「ふれあい交流ファーム」として提供しています。



3 学校における地場産農産物の利用

食育の観点から、子どもたちに生産者に対する感謝と食の大切さを学んでもらうとともに、地場産農産物の地域での消費を促進するため、学校給食への奈良県産食材利用を推進しております。平成30年度（2018年度）より関係機関と定例会を実施し、今まで使用実績のなかった地元食材を給食に取り入れることができ、奈良県産学校給食食材地産地消率は、48.64%となりました。今後も食育の推進、地域活性の観点からも、地産地消の推進に取り組んでまいります。